（別紙4）　　平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170600767		
法人名	医療法人社団悠久会		
事業所名	グッデイすぎない　グループホーム		
所在地	岐阜県羽島郡笠松町二見町１５－１		
自己評価作成日	平成23年8月1日	評価結果市町村受理日	平成23年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600767&SCD=320&PCD=21

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地　尾関ビル
訪問調査日	平成23年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

敷地内にデイサービスと小規模多機能型事業所が併設している事もあり、各事業所の利用者様が訪れる機会も多く、利用者様の生活環境を大きく変える事無く地域との関わりや繋がりを継続的行える。また併設事業所と連絡を密に取る事ができ利用者様とその家族様に安心で多様なサービスが提供できます。　医療との連帯が密接であり、異常時、緊急時、終末期などそれぞれの対応にきめ細かく対応する事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームは、デイサービス・小規模多機能型居宅介護支援事業所が同一敷地内にあり、母体医療法人の医院と連携して運営されている。利用者も近隣の人が多く、地域の住民とは、顔馴染みの関係になっている。法人主催の夏祭りには、家族や、住民と共に盛大に行われ、地域に密着して運営している。祭りには、屋台も並び、ボランティアの踊りに合わせ、利用者の浴衣姿の盆踊りも見られた。「できるだけ住まいを変わらずに最期まで」という事業所の考えで、終末期ケアも家族の協力の元で行い、地域での看取りの実績を積んでいる。職員の離職も少なく、常に安定したサービスを目指し、きめ細かな支援を行っている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスの意義や役割を日々考え、毎日の朝・夕の申し送りで唱和することで意識づけ実践につなげると共に、月１回のホーム会議で職員全員で話し合いの場を設けている。	地域の中で、挨拶や声をかけ合いながら、あたりまえの生活ができるように、利用者の尊厳を大切にする理念を掲げている。理念は、朝夕の申し送りで唱和し、共有している。笑顔を絶やさず、その人らしく、尊厳のある暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加、老人クラブの訪問などや、施設開催のお祭りは地域住民の方が170名ほど参加して下さり、より一層交流を深め地域へ還元できる事の一つとして積極的に取り組んでいる。	近隣の神社祭りや、ホーム主催の夏祭りで、地域の人々と交流している。また、老人クラブや保育園とも、相互に交流している。住民のフラダンスや高校生の太鼓演奏、アニマルセラピーなどが訪問し、利用者との楽しい時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター主催の認知症勉強会に参加しグループホームで生活している利用者様の理解を求め、地域民生委員様からの相談などを受け実践経験を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域民生委員様の多数の参加があり、役所福祉課、包括支援センター、家族様、利用者様など意見・要望など話し合い、議題によって専門意見が得られるメンバーに参加いただいてサービスの向上に努めている。	会議は、2ヶ月に1回、行政・民生委員・地域包括支援センター・利用者と家族が参加している。様々な意見の中で、職員の名札に関する提案や、防災訓練、施設行事計画について検討し、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営を行う中で疑問・質問などは、その都度連絡しアドバイスをいただいている。施設内勉強の講師を依頼、ご協力いただいている。	行政と地域包括支援センター主催の勉強会に、事業所の会場を提供している。勉強会には、住民も参加し、地域福祉の向上にも繋がっている。行政担当者は、ホームを気軽に訪問し、互いに相談や助言ができる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等にて身体拘束について話し合い正しく理解し、役所に相談、意見を求めながら家族様にもご理解いただき取り組んでいる。	身体拘束については、全職員がホーム内研修などで学び合い、拘束をしないケアを実践している。ベッド柵の必要がある場合は、家族に説明し、承諾を得ているが、極力、拘束ゼロのケアを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職場内研修や職員会議等で普段からも注意をし自宅や事業所内で虐待が見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で活用されている方もおられ支援している。又、他利用者様・家族様等に周知していただくために勉強会開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を取り説明を行い、納得を得た上で契約を行っている。又、報酬加算の説明、料金改定等、入所時の契約に限らず必要に応じ説明確認をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族族会の開催より率直な意見をお聞きしたり、面会時には家族様に、ご利用者の意見をお尋ねしていただき、その意見を会議で話し合い質の向上に努めています。口頭にてためらう家族等様には「御意見箱」を設置している。	利用者の希望は、日々の会話や表情の中で汲み取り、家族からは面会時に希望を聞いている。家族へ送付する個別便りで、利用者の様子を伝え、家族がそれを基に気づいたことを話し合い、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とコミュニケーションを多く取れるよう心掛け職員の意見に耳を傾け、働く意欲の向上や質の確保、利用者様の満足に繋がるようし運営改善に繋げている。	月に1回の職員会議や、日々の申し送りを通し、職員が意見を出しやすい環境となっている。職員から、食器乾燥機を導入の提案を受け、法人の上部機関で検討し、運営の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の目標を掲げ、職員の日ごろの努力や実績を認めると共に、向上心を持って働ける職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修を段階・レベルに合わせ行い、実技等、実際の場面にて指導している。外部研修案内を掲示し意欲的に参加の申し出がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所との連帯事業に取り組み、同業事業所とのネットワークができ質向上に取り組めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、ご本人様・ご家族様と面談を行う際に、プライバシーの保護に十分配慮しながら安心して相談できる雰囲気作り、お話をしっかり聴き受け止め、信頼関係を築けるようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、家族様の話をしっかりと聴き、家族様の立場になって、その気持ちを受け止め、安心して入居していただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態や家族様の要望などをふまえ、包括支援センターや他事業所と連帯しており適切なサービスをできるようしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活者として生きられるよう支援する所なので、残された能力を充分に発揮できる場所を提供できるように話し合いながら共に支え合い、人生の先輩として尊厳をもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員本位にならず、家族様との関わりの時間を計画するなど、家族様との絆を深めるように努力し良い関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の散歩や地域の行事に参加することで馴染みの人々にと会うことができ、併設のデイサービスや小規模多機能のサービス利用される方が気軽に立ち寄ることができ継続的に支援できている。	利用者の多くは、ホームから近い場所に自宅があり、馴染みの八百屋・美容院・雑貨屋などへ職員と共に出かけている。友人や親族も気軽にホームを訪れ、居室やリビングで面談している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様同士の会話の懸け橋となれるよう心掛け、利用者様が孤立しないよう努め、お互いの状態を理解し合い支え合うようサポートしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族様にも行事の案内を出し施設行事に参加いただくなど、その後の経過を見守ったり主治医からの協力もいただいている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中で利用者様の希望・意向を把握し努めるように努力している。又家族様から本人様の生活歴等を伺い、利用者様本位のケアができるよう心がけます。	日常の会話の中から、思いや意向を把握している。言葉で表現できない人は、仕草や表情から読み取り、希望を察している。把握した思いや願いを職員間で共有し、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく生活できるよう、入居前のアセスメントや趣味、嗜好など把握すると共に、プライバシーに配慮しこれまでの暮らしや馴染みを関係を築きながら、発見したことを付け加え職員会議で話し合いケアに活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしく生活していただけるように、生活のリズムひ把握に努めています。職員会議や普段のコミュニケーションの中で利用者様の情報を共有し統一したサービスが提供できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様より課題や意向、主治医からのアドバイスも取り入れ、担当者会議をふまえて介護計画を作成し目標達成度を定期的に評価して見直しを図っている。	担当者や職員が拾い上げた日々の気づきに基づき、本人と家族の要望も取り入れ、介護計画を作成している。3ヶ月に1回の見直しを基本としているが、必要時には、関係者と話し合い、随時見直している。	利用者一人ひとりの目標を具体化させ、目標に向けた取り組みに期待したい。さらには、希望や目的・動機づけ等を設定し、個別的な計画となるよう配慮されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記入し、朝・夕の申し送りにて情報を共有しながらケア方針を決めて実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズにあわせ、その時々に応じ入浴時間や食事の形態等、柔軟な支援を臨機応変にするよう努力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センター・民生委員様の情報の提供、消防署・町内会の避難訓練の協力、保育所・小学校・レクボランティアとの交流など、いろいろな協力を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様が希望するかかりつけ医で月２回の定期往診を実施　緊急時は主治医・看護師との連帯を図り指示を得ている。往診の結果は家族様に連絡している。	利用前のかかりつけ医を継続する人や、母体の医院へ変更した人もある。希望するかかりつけ医からは、月に2回の往診がある。家族へは、医療情報を伝え、利用者の体調管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行い、週１回の看護師の訪問で一人ひとりの健康管理と日常的に医療面の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際し本人様や家族様が安心して治療・ケア等受けられる様に情報など提供医療機関との連携し、退院時には病院関係者や本人様・家族様と退院計画を話し合いをしながら安心していただけるようしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、本人様・家族様の意向を聞いている。状態の変化に応じ、十分に担当者会議を開催し、出来る限り本人様・家族様の意向に沿えるようにしている。近隣の病院の協力体制や看護師から重度化や終末期に向けたケアの勉強会もしている。	法人は、総合病院とも提携しており、24時間の医療対応が可能となっている。終末期には、段階的に、かかりつけ医や家族・ホームで話し合い、医療・介護の連携を密にしながら終末期に対応している。	ホームが行った看取りは、「自然な形で、医師に診てもらいながら家族で看取りをする」という、自然な流れを手助けするものであり、ホームと職員が、地域終末期ケアの指南役ともなり、今後の広がりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力にて職員全員が普通救命講習を受講しており、定期的な勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年２回（内１回夜間想定）の避難訓練・消化訓練実施　消防隊員参加の避難訓練実施に向け消防署との連絡調整中。利用者様の身体状況など情報の提供をしており地域の協力体制ができている。	年に2回の災害訓練を行っている。今年は、職員が利用者に扮し、2階から、シーツを利用した救出法を予定をしている。災害ビデオを利用し、運営推進会議内でも災害について話し合っている。備蓄も、食料・薬・おむつなどを備えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム会議にてプライバシー保護の取り組みに関する勉強会を行い、利用者様一人ひとりの豊富な生活の知恵を十分発揮できるような場をつくり、尊厳を重んじ人生の先輩として敬う姿勢を意識している。	法人全体で尊厳に対する勉強会を開催し、言葉かけやトイレ誘導法・入浴の際の注意事項や個人情報について学び、きめ細かく対応をしている。その人の人生歴や職歴・得意なことを活かし、誇りの持てる場面作りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた雰囲気の中で、馴染みの職員がゆっくり利用者様の話を傾聴し、職員の価値観を押し付ける事無く、本人様自身で判断できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間・就寝時間、居室の環境など画一的に行うのではなく利用者様の気持ちを優先した個別ケアができるよう支援し、ケアプランに基づき個別ケアの実践をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った好みの洋服を着ていただく支援や馴染みの美容師の来所にてヘアーカット・パーマなどしている。女性利用者様には化粧のサポートもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に調理の下準備や味付け盛り付けなど家事調理に参加していただき職員と一緒に楽しく行っている。誕生会には利用者様の好まれるメニューを選択していただくなど希望により外食や出前も行っている。	しその葉を使ったジュース作りや、食材の下準備・盛り付け・味見など、利用者も食事作りを手伝っている。誕生日やクリスマスなどの行事には、利用者の好みを聞いて、職員と一緒に食事作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事を提供し、日頃の食事の中で利用者様の嗜好を理解できるように努め、食事摂取・水分摂取の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けをし、利用者様それぞれの力に応じた口腔ケアを行っている。提携歯科医師の協力や訪問治療も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用にて誘導のタイミングがつかめ気持ち良い排泄ができている。 個々に合わせたトイレ誘導、サポートをしている。	排泄チェック表に基づいた個々のパターンを把握し、自立排泄につながる支援をしている。紙パンツの使用枚数も削減され、費用を軽減している。布パンツの気持ち良さが利用者の表情に表れて、職員の働く意欲にもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好まれるヨーグルトや食物繊維の多い食べ物を摂るようにして、日常生活の中で適度の運動を促し、個々の排便リズムをつかみ出来る限り自然排便を促すための工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外の入浴を実施している。その日の本人様の気分や体調に応じ時間など柔軟に対応している。	毎週3・4回は入浴しているが、希望があれば、毎日の入浴も可能としている。職員は、入浴の声かけやタイミング、好みを常に把握している。入浴を嫌う人はなく、浴槽で歌を唄ったり、楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで生活していただき、室温調整と静かな環境に気を配り快適に入眠出来るようにしている。生活のリズムを整え休憩もその時々の状態でサポートしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用を理解し服薬には職員一人一人が責任を持って確実に服用できるよう支援している。又、主治医・薬局からの情報提供・指導などある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った日替わりのレクリエーションや役割・楽しみができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「今日は天気がいいね」の言葉にあわせ散歩・ドライブに出かけたり、利用者様の希望に沿いしえんしている。笠松町社会福祉協議会のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ職員さんも協力依頼には好意的である	近くの八幡神社や顔なじみの商店などへ、散歩を兼ねて出かけている。ホームで作った弁当を持ち、川沿いの公園の桜見物には、毎年出かけている。遠方へのバス旅行も、年間行事の中で実施している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠足での土産買いや地域のお祭りの屋台で買い物で自身で品物を選び購入しお金に触れ支払いができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いなど個人の力に応じて支援し家族様とのやり取りがある。電話は希望に応じサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの利用者様も生け花が好きで各居室には花が絶えない。共同スペースのリビングは整理整頓を心掛け、居心地がよく、活動しやすい場所とできるよう努めている。	リビングにある共用の洗面所は、車椅子でも使用可能な高さで設計され、居室への廊下の手すりも、利用者がつかまりやすく、手に優しい天然木となっている。利用者は、広いリビングのソファーで寛ぎ、ゆったりと居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の気の合う、合わないを考慮して、テーブル席についていただいているが、その日の本人様の気分によって席は自由に座っていただなど、その用途に合わせテーブルの配置も変化させている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた日用品を持ち込んでいただき、家族様の写真や好きな花を飾り、利用者様が落ちついて過ごせるよう工夫している。	7室の居室内には、備え付けトイレがあり、電動ベッドと洗面所は全室に備えている。昼食後は居室内で横になったり、利用者同士で会話する姿も見られる。タンスの上には、手芸品や作品・家族の写真が飾られ、個性的で落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険防止が利用者様の行動を制限しないよう必要最小限で抑えるよう努めています。利用者の身体状況に合わせ、その都度環境を整えるようにしています。		